

第3回川口駅周辺在り方検討委員会

～第2回委員会の振り返り～

- (1) 第2回委員会・調整会の主な意見
- (2) 検討スケジュール

(1) 第2回委員会の主な意見

●第2回委員会資料より抜粋

川口駅周辺 まちづくり ビジョン (R4策定)

- ◆川口駅周囲の環状道路周辺までのエリアを対象として、
「目指す方向性」と6つの重点項目ごとの目標と取組方針を設定

目指す方向性

「住みやすいまち」を超えて、働き、憩い、文化・芸術に親しめるまちとして
発展することで、「住み続けたいまち」・「さらなる選ばれるまち」へ

重点項目 ・取組方針

1. 回遊性

2. 都市機能

3. オープン
スペース

4. 交通

5. 都市景観
・環境

6. 防災

「駅まち空間」における具体化

川口駅周辺 まちづくり 指針 (今回策定)

- ◆駅・駅前広場と隣接街区（「駅まち空間」）までのエリアを対象として、
将来の中距離電車停車等の考慮すべき事項を踏まえ、官民共有のガイドラインとして具体的な空間整備の方針等を整理

考慮すべき事項

- ・中距離電車停車の効果を最大化
- ・スマートシティ化等の社会情勢の変化

現状と課題の分析・精査

目指すべき将来像

【全体のコンセプトを検討】

●●として「さらなる選ばれるまち」へ

「選ばれる」ための戦略

- ①拠点力の強化～交通結節機能の強化・新たな都市機能の集積～
- ②空間魅力の創造～歩きたくなる・過ごしたくなる空間づくり～
- ③ブランド力の確立～「川口ならではの」魅力の可視化と発信～

空間整備の 取組方針

主な取組等

具体化に向けて 配慮すべき視点

既存ストックの
最大限の活用

将来変化への
柔軟性の確保

公民連携の推進

まちづくりDX

官民共有のガイドラインとして機能

個別の事業

川口駅の再整備

公共施設の整備・活用

民間による開発等

■川口の目指す方向性について

分類	主なご意見
視点	・川口駅利用者は周辺の住民の方がメインであると思う。乗り継ぎでのアクセスのしやすさ等、住民目線で必要なサービスを向上させることが都市間（大宮、浦和、赤羽等）の競争をする上では重要であると思う。 ・川口は都心に一番近く、通勤者等の利便性が高いということが重要なメリットである。
官民連携	・デッキを含めた回遊性の向上を目指すには、官民等様々な協力体制が必要不可欠なため、まずは会話をする場やネットワーク作りが必要。 ・各バス会社と手を取り、データを共有しながら1つのシステムにすることがこれからの時代では求められるのではないかな。
エリアマネジメント	・既存ストックも残すべきものと残さないものの仕分けが必要。 ・回遊するにも、子どもから大人まで安心・安全であることが重要であるため、町全体のテーマとして見通しが利く空間等のルール付けも良いのではないかな。 ・公園全体の運営等、エリアマネジメントで管理者を決め、誰が運営するのかを含めて議論する必要がある。
方向性	・「住み続けたいまち」は現在住んでいる人に向けたもので、「さらに選ばれるまち」はこれから川口を選んで住んでもらう人に向けたもので、方向性が異なったものである。それらの意見をアンケートで求めても良いのでは。 ・他の駅ではなく川口に行きたくくなるような、樹モール商店街等の周辺市街地との回遊性等を含めた、川口ならではのまちづくりを目指していただきたい。

■その他：第2回調整会議について

- ・川口駅周辺の在り方をより実務的な視点で検討する場として、川口商工会議所や川口駅周辺の商業施設の代表の方を中心に第2回川口駅周辺在り方調整会議を開催し、在り方検討委員会の内容を共有するとともに、主に近年の猛暑による商業施設の集客への影響や賑わいを創出するために必要な要素に関する意見等が挙げられた。

講演内容

坂村 健 氏 (INIADcHUB機構長) 『AI活用による将来の川口駅周辺の方向性』



- 人口減少に伴う運転手不足等の対応策として、AIと連携した「MaaS※」という考え方がある。これはAIが最適な経路や交通手段を考え、待ち時間の少ない効率的な移動が可能になる。
- 将来の川口駅周辺の方向性についての考え方
 - ① デジタル技術を活用した乗換え環境の整備等による新たな交通インフラのモデル都市
→見学者等の人流が増加し、賑わいのあるまちへ発展
 - ② エリアosによる都市のサービス連携
→情報サービス等の利便性の向上や持続可能な都市へ発展

※MaaS：「Mobility as a Service」の略

【質問】

将来、個人自動車自動運転になる時には、公共交通はどうあるべきか。

(聴講者)

【回答】

個人自動車を持つ人が多く公共交通の需要は減っているが、高齢者の免許返納等を考慮し、オンデマンドタクシー等を充実すべきだと思う。

(坂村 氏)

田嶋 靖夫 氏 (都市再生機構) 『駅周辺のまちづくりの事例について』



- 渋谷駅周辺のまちづくりの事例：
渋谷駅の東口と西口を繋ぐ移動をバリアフリー化するまちづくり
取組① 東西の移動をやすくする歩行者ネットワークの整備
取組② 渋谷駅の再編による交通機能や防災機能の強化
取組③ 多様な関係者が連携するまちづくりの体制の構築
- うめきた2期のまちづくりの事例：
JR大阪駅前に大自然の中で過ごせる空間を整備するまちづくり
取組① JRの支線の地下化と新駅の設定
取組② 民間施設と公園を一体化利用できる空間の整備
取組③ 小さな土地を活用した実証実験

【質問】

事業の提案はどんな形で行い、合意形成はどのように得られたのか。

(聴講者)

【回答】

多くの事業会社が所属する協議会の中で公募を行い、検討会での議論やパブリックコメントを踏まえて方針を決定した。

(田嶋 氏)

まちづくり指針（素案）を策定することを目標とする。
以降、パブリックコメントを実施し、「川口駅周辺まちづくり指針」を策定し公表する。
検討会のスケジュールと検討内容は以下を想定している。

■スケジュール（案）

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	1月	以降
検討会等	第2回 在り方検討会			第2回 調整会議 利用者調査 (アンケート)	第3回 在り方検討会		第4回 在り方検討会 1/16	まちづくり指針 素案策定

第3回と第4回の間にて
書類による意見交換を
実施予定

■検討内容（案）

第2回在り方検討委員会（前回）

- ・まち歩きによる現状の確認
- ・駅まちづくりに関する考え方等のご意見や事例の紹介
- ・現状と課題を踏まえたまちづくりのコンセプト（案）等に関する議論
- ・駅周辺利用者調査の調査内容の説明

第3回在り方検討委員会（今回）

- ・駅周辺利用者調査の調査結果の報告
- ・まちづくり指針（骨子）の説明
- ・主な取組等に関する議論

第4回在り方検討委員会

- ・まちづくり指針（素案）に対する意見交換
- ・今後の進め方